

製品名: PIG-Y ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16145**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:10000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	PIGY
別名	PIGY; Phosphatidylinositol N-acetylglucosaminyltransferase subunit Y; Phosphatidylinositol-glycan biosynthesis class Y protein; PIG-Y
遺伝子 ID	84992.0
SwissProt ID	Q3MUY2
免疫原	抗血清はヒト PIGY 由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 3-52

背景

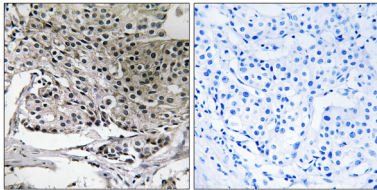
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、グリコシルホスファチジルイノシトール (GPI) の生合成を開始する GPI-N-アセチ

ルグルコサミン転移酵素 (GIP-GnT) 複合体の一部です。GPI は小胞体で合成され、多くの表面タンパク質のアンカーとして機能します。GPI アンカーを含むタンパク質は、細胞間相互作用において重要な役割を果たす可能性があります。この遺伝子の転写産物はバイストロニックです。下流のオープンリーディングフレームはこの GPI-GnT 複合体タンパク質をコードし、上流のオープンリーディングフレームは GeneID:100996939 で表される機能不明のタンパク質をコードします。 [RefSeq 提供、2012 年 8 月]機能: 小胞体中存在する GPI-GlcNAc 転移酵素 (GPI-GnT) 複合体の構成要素。この複合体は、UDP-GlcNAc から受容体であるホスファチジルイノシトールへの GlcNAc の転移を触媒し、細胞表面タンパク質の GPI アンカー生成における最初のステップとなる。触媒サブユニット PIGA の制御を介して作用する可能性がある。、その他: PIGY は、このタンパク質をコードする同じ 2 シストロン性転写産物に由来する。、その他: PREY は、このタンパク質をコードする同じ 2 シストロン性転写産物に由来する。、経路: 糖脂質生成;グリコシルホスファチジルイノシトールアンカー生成に関与する。、類似性: PREY ファミリーに属する。、類似性: TRM112 ドメインを 1 つ含む。、サブユニット: PIGA、PIGC、PIGH、PIGP、PIGQ、および DPM2 からなる GPI-GnT 複合体と相互作用する。PIGA とは直接相互作用する。Ras タンパク質とは相互作用しない。、

研究分野

グリコシルホスファチジルイノシトール (GPI) アンカー生成;

画像データ



PIGY 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。